

[TOP page](#)[資料室](#)[イベント情報](#)[講師を探す](#)[Worker's 広場](#)[関連リンク](#)

資料室


[HOME](#) | [資料室](#) | [一般教養](#) | [自己啓発](#) | [ドラッカーの思想③](#)
[労働組合](#)[労働者福祉・共済](#)[一般教養](#)[社会保障](#)[労使トラブル法律相談Q&A](#)[労働関係法](#)[経営全般](#)[人間関係とコミュニケーション](#)[ライフプラン](#)[男女共同参画](#)[公務員関係法](#)[日朝の歴史](#)[7つの習慣](#)[中東の歴史](#)[ボランティア活動](#)[環境活動](#)[社会貢献活動](#)[自己啓発](#)[生涯学習](#)[外交・防衛問題](#)[資本論](#)[教育カリキュラム](#)[日本国憲法](#)

ドラッカーの思想③

「経済人の終わりに」に書かれている「経済人」とは、エコノミックマン、日本でもよく言われたエコノミックアニマルと同じ意味だ。

経済のために生まれて、経済のために死んで、経済のために戦争をする人々、あるいは休戦する人々、つまり経済至上主義の世の中に生きる人々のことだ。

それは資本主義社会でも社会主義社会でも多くみられる人々だ。

しかし、この「経済人の終わり」には、経済人＝経済至上主義に生きるエコノミックマンの時代はやがて終わるとは書いてあるが、その後どうすればいいかの答えは書かれていない。

その答えともいうべきものが書かれたのが、二作目の「産業人の未来－改革の原理としての保守主義」だ。

この本のなかでドラッカーは、今後は産業人が未来をつくっていくことになる、と述べている。

産業人とは、組織社会のなかで働いているふつうの人々のことである。

現在の社会ではほとんどの人が、なんらかの形で組織に属しながら生活している。

ドラッカーはこうした時代の流れを見て、社会の構成要素である組織に着目した。

単純にいってしまえば、すべての財とサービスが組織で産みだされ、すべての人が組織で働いているとするならば、それらの組織をよりよいものにしていけば、組織の集まりである社会もよくなるはずだ、という発想である。

社会の構成要素である組織のひとつひとつがどう運営されるかによって、人間は幸せにも不幸せにもなりえる。

それならば、資本主義や社会主義といった「イデオロギ」に代わるものとしての、組織の運営の仕方（マネジメント）

にこそ注目すべきではないか、とドラッカーは考えたのである。

イデオロギに頼らずに世の中をよくするにはどうしたらよいのか。

それは理想を求めて、手持ちの道具を使って、問題をひとつひとつ解決していくこと。

ケースバイケースで進むこと。

組織にとっても、社会にとっても万能薬などはないし、論理だけでは解決できないとしている。

それが、ドラッカーのいう保守主義の姿であり、ポストモダン（脱モダン）の方法だ。

モダンとは近代合理主義の時代を表す言葉であるが、ドラッカーは歴史の大きな転換期を迎え、すでに新しい時代へ移行していると捉えていた。

それがポストモダンである。

(つづく)

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

>>一覧へ戻る

傾聴

語り部スキル

🔍 キーワード検索はこちら

🗺️ サイトマップ 🔍 このサイトについて 🛡️ 個人情報保護の取組みについて

🏠 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.